

建設工事現場の総合的なイメージアップに関する一考察

名古屋工業大学 ○飯田 正範
名古屋工業大学 正会員 和田かおる
名古屋工業大学 正会員 山本 幸司

1. はじめに

社会基盤施設整備を中心とする建設工事が実施されている間は、景観面、安全面、交通面などにおいて現場周辺の日常生活に対して影響を及ぼす。このため、建設工事に対する市民のイメージは必要以上に悪くっており、建設業界ではこのような状況を見直し、建設工事現場のイメージアップを積極的に行おうとしている。今後、建設工事現場のイメージアップは快適で魅力ある作業環境作りの一環として、さらには建設工事現場に対する地域住民や社会の理解を得るためにも重要な課題である。

そこで、本研究では工事現場周辺住民を対象とするアンケート調査により、現在行われている建設工事現場におけるイメージアップがどのように受け入れられているかを分析し、今後どのような対策が有効であるかを検討する。

2. 工事現場のイメージアップの現状

現在、ゼネコンを中心に建設工事現場のイメージアップは積極的に行われつつある。イメージアップの具体例として、景観面に対しては現場のライトアップや防護柵のデザイン化など、地域住民とのコミュニケーションとしては現場見学(説明)会や完成予想図パネル(写真1参照)の掲載、工期表示の大型化(明示化)など、またその他として現場周辺の清掃や女性交通誘導員の採用などが行われている。このようなイメージアップは、現場周辺住民や現場付近の通行人に理解を得ることを目的として行われており、これによって一般市民が工事への理解を深め、工事の円滑化が期待できる。したがって、現行のイメージアップが本当に一般市民に受け入れられているかを調査分析することは重要である。そこで本研究では、建設工事現場周辺の住民に対するアンケート調査によって現行のイメージアップがどのように評価されているかを分析することにする。

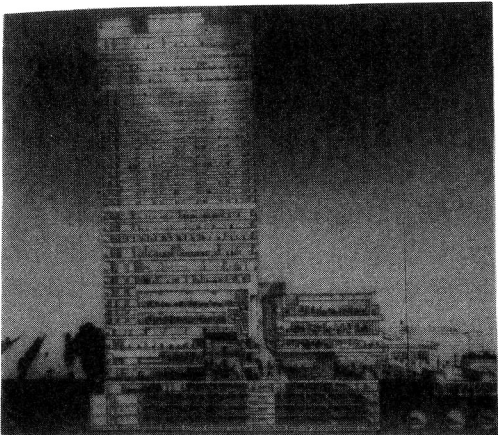


写真-1 金山南ビル完成予想図パネル

3. アンケート調査の概要

本研究では以下に示すアンケート調査を実施した。

調査対象工事:金山南ビル建設工事現場
(名古屋市熱田区金山)

調査時期:平成8年11月28日～12月6日

調査方法:金山南ビル建設工事現場の半径1km以内に
在住する地域住民に対して無作為にア
ンケート調査票を配布し、後日再訪問して
回収。

調査内容:調査項目は表-1の通り。なお、質問7～
12, 18～22は5段階で評価。

調査部数:配布部数332部, 回収部数275部,
回収率82. 8%, 有効回答率75. 9%。

表-1 アンケート調査の調査項目

1)個人属性
1. ブロック 2. 年齢 3. 性別 4. 職業
5. 金山総合駅の利用頻度
2)金山南ビル建設工事現場について
6. この工事に関心があるかどうか
7. 景観面 8. 騒音面 9. 安全面
10. 工期面 11. 衛生面 12. 地域とのコミュニケーション
13. 7～12で特に重要視するのはどれか
14. 防護柵について 15. 完成予想図パネルについて
3)一般的な工事現場のイメージアップについて
16. 昔と比べ、現在の工事現場は、イメージアップが進んでいるか
17. 現場見学会に参加したいか
18. ライトアップ 19. 女性交通誘導員 20. 工期表示の大型化
21. 防護柵のデザイン化 22. 完成予想図パネル
23. イメージアップは今後も努力するべきか

4. アンケート調査の分析結果

アンケート調査より得られたデータをもとに、単純集計およびクロス集計を行ったが、紙面の都合上、ここでは単純集計の結果のみを示す。

(1) 金山南ビル建設工事現場に関する分析結果

『騒音面』、『安全面』、『衛生面』では半数以上の住民が、この工事現場に対して良い印象を持っていることが明らかになった。特に、『衛生面』に関しては、現場の職員が、毎朝、現場周辺道路の清掃を行っていることも一因であると予想される。『工期面（工期表示がわかりやすいかどうか）』、『地域とのコミュニケーション（住民に理解を得ようとしているか）』では逆に「やや不満」の割合が高い。また、図-1より、特に重要視するという項目は『安全面』という結果を得た。このことから、『安全面』の強化が建設工事現場のイメージアップにつながることをわかる。本工事現場に対しては半数以上の住民が『安全面』に関して良好なイメージを持っていることから、全体的に見てイメージアップが功を奏した建設工事現場であると判断できる。また、『交通面』と『安全面』を関連づけて考えている住民が多いことも明らかとなった。

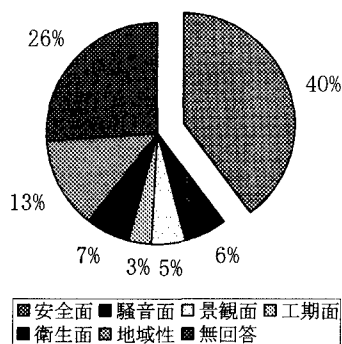


図-1 特に重要視する項目の割合

(2) 一般的な工事現場のイメージアップに関する分析結果

この質問項目に関しては、この工事現場ではなく、一般的な建設工事現場を思い浮かべながら回答してもらった。その結果、図-2に示すように問18～22のイメージアップ策の5項目すべてにおいて「必要である」と回答する割合が高く、中でも『工期表示の大型化』と『完成予想図パネル』については80%以上が「必要」と回答した。すなわち、「ここにいつ、何ができるのか?」という単純な疑問に対する明確な回答が強く望まれていることが明らかになった。工事現場での情報提供には一般市民の気持ちを和らげる効果があり、このような配慮が建設工事を円滑に進める上でも重要になると思われる。

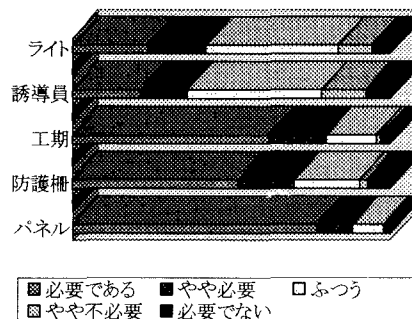


図-2 問18～22に対する回答

『今後も建設工事現場のイメージアップは努力するべきか』との質問に対し、図-3のように85%の人が「努力すべきである」と回答したことから、現在の建設工事現場において、改善すべき点はまだ存在することを示している。しかしながら外観的なイメージアップだけでなく、現場で働く人々のモラル向上や現場周辺の清掃など、当面実行可能なことを積極的に進めるのも一つの方策である。特に建設工事現場が市街地にある場合、工事期間中は現場関係者も現場周辺住民と同様に、その地域で果たすべき役割を遂行することが、地域密着型の建設工事現場に求められていると考えられる。

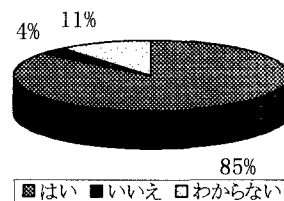


図-3 問23(イメージアップは今後も努力するべきか)の回答

5. おわりに

本研究では、建設工事現場の周辺住民に対するアンケート調査を中心に建設工事現場のイメージアップについて分析した。その結果、建設工事現場周辺住民は、外観的なイメージアップよりも安全面を重視していることが明らかとなった。今後は、イメージアップにかかるコストの問題もふまえて工事発注者、受注者がどのようなイメージアップを行うことが可能であるかを分析する。なお、本研究では建設工事現場で働く建設技術者や作業員、ならびに一般市民を対象としたアンケート調査も実施しているが、紙面の都合上、その結果は講演時に示す。

最後に、アンケート調査を実施するにあたり、(財)名古屋都市整備公社および金山南ビル建設工事共同企業体の方々に多大なるご協力をいただいた。ここに感謝を申し上げます。